

# 十七文字の抒情詩



暑さがこのままずっと続くのでは・・・と心配しましたが、やはり秋は巡って来て、今は木枯らしの冬。自然は大変な試練を与える事もあるけれど、紅葉した葉を見ながら歩いていると何てすばらしいのだろうと思います。秋の季語はとてもロマンチックだったり、透き通った空気が感じられるものだったり、美しいものがたくさんあります。俳句を作るのには良い季節ですよ。

今回もうさおさんの句から拝見しましょう。



残暑ありゲーム燃ゆるか甲子園

残暑あり、燃ゆるか、が少し気になります。もう少しさらりと詠んでもよいと思います。

\*白熱のゲーム残暑の甲子園



野分過ぎしかし涼しき神無月

野分、涼し、神無月・・・一つの句に季語三つはもったいないです。

\*風吹けば風心地良き神無月



賑おうてそぞろ寒さのくいだおれ

良いですね。大阪の街の賑わいが見えてきます。季語も良いし好きな句です。

続いて健さんの句です。



秋霞彼方に点る赤色灯

秋ならば霧とする所ですが、あえて秋霞とされた事で赤色灯が生きてきますね。

ハマの地の三塔巡り黄落す

(横浜にはキング・クイーン・ジャックの愛称で知られる三つの塔があり三塔を同時に見られるスポットが三箇所(現在は4箇所)あります。それらをすべて回ると願いが叶うという伝説がありそのうちの一つ県庁前は県の木が銀杏とあって黄落の名所にもなっています。)



解説を聞くと句意が良く解ります。県庁の塔はキングですか？横浜らしい伝説ですね。

\*横浜に三塔伝説黄落す



雲はやく流れゆく日や冬隣

良く解ります。確かに秋の終わり見上げると雲の流れの速さに驚く事がありますね。実際に見たまを詠むという俳句の基本ですね。



冬近し歯科医の屋根に風見鶏

\*冬近し歯科医の屋根の風見鶏

一文字ですが、に・・・をの・・・にされた方が風見鶏がはっきりします。



童謡を奏でるピアノ冬の雨

奏でるのがショパンではなく童謡というのが意外。

子供が弾いているのでしょうか・・・季語の取り合わせも良いと思います。

うさおさん、健さん投句ありがとうございました。

難しく考えないで、さらりと詠む。無理のない言葉使いが良いのです。

さりげなく、季語の力を借りて・・・次回も投句お待ちしております。

寒さもこれからが本番です。皆様風邪など引かないようにお気を付け下さいね。



ポケットの団栗人の温み持つ



古民家の高き天井秋深む ゆうこ

